

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志徳 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

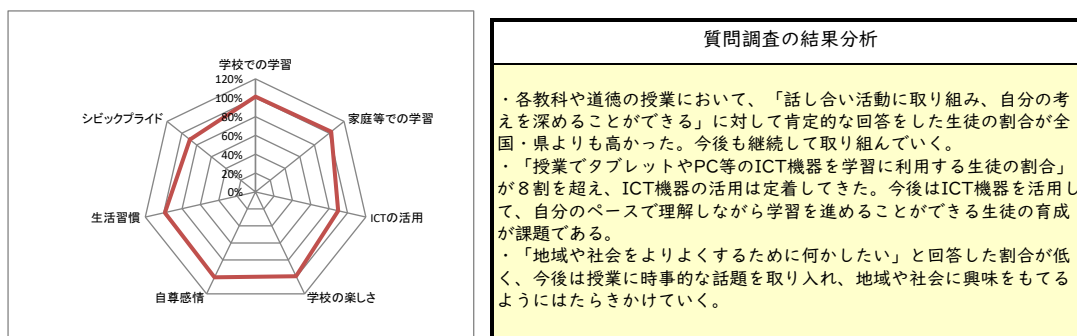
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」は理解できているが、「話すこと・聞くことに関する問題」に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「文脈に即して漢字を正しく書く問題」「行書の特徴を理解する問題」「目的に応じて伝えたいことを明確にする問題」	
	努力が必要な問題	「文章と図とを結びつけその内容を解釈する問題」「必要な情報に着目して要約する問題」	

数学	全体的な傾向や特徴など	「関数」と「データ」に関する問題は理解できているが、「図形」や「数と式」に関する問題に対して課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「等式を目的に応じて変形する問題」「確率を求める問題」「正の数と負の数の加法の計算」	
	努力が必要な問題	「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題」「道筋を立てて証明する問題」	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析

- ・各教科や道徳の授業において、「話し合い活動に取り組み、自分の考えを深めることができる」に対して肯定的な回答をした生徒の割合が全国・県よりも高かった。今後も継続して取り組んでいく。
- ・「授業でタブレットやPC等のICT機器を学習に利用する生徒の割合」が8割を超え、ICT機器の活用は定着してきた。今後はICT機器を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる生徒の育成が課題である。
- ・「地域や社会をよりよくするために何かしたい」と回答した割合が低く、今後は授業に時事的な話題を取り入れ、地域や社会に興味をもてるようにはたらきかけていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・自分の考えを深めたり、広げたりするような話し合い活動や協同的な学びの活動を意図的に授業に取り入れる。
- ・ICT機器を活用し、自分の意見や考えを共有する活動を取り入れる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・日頃から、家庭での復習・予習を習慣化させる。
- ・校区内の小学校と連携した取組として、定期考査後の朝自習を読書週間に設定し、校区全体で読書に親しむ生徒の育成を行っている。